

第3回 千代田区公園・児童遊園等整備方針検討会における 委員指摘対応表

1. 委員指摘とその対応

(1)公園分類について

発言・指摘	委員	検討内容
公園は、多機能である。公園分類の将来系の見せ方として公園機能の何を「強化したい・特化したい」のかをはっきり記載すると良いと考える。 公園分類を増やす必要はないが、地域活用公園などに防災の視点を入れるべきだと考える。 公園分類できていない公園についての補足を入れるべき。 緑のネットワーク、生物多様性、都市気象の緩和、延焼防止、歩いていくつろぎを与えるものなど、まちをつなげる効果があることを明記するべきである。	竹内委員	公園機能分類については、基本方針に基づき公園機能が将来系として強化・拡充する内容を検討する。 公園が担保すべき基本的な機能として緑のネットワーク・生物多様性・延焼防止などがあり、それらを表現するよう検討する。 公園機能分類外についての補足内容を追記を検討する。
マップでは、公園を面で塗って頂きたい。 施設は、点(プロット)でも良い。水系も面で塗ってほしい。	伊藤委員	地域活用公園の箇所に公園に必要な防災の視点を追記する。 マップに避難所の位置をプロットする。
マップに避難所として指定されている箇所がのつても良いと考える。	加藤委員	緑や親水空間については、GISデータや千代田区施設案内図をベースに面的に作成する。
自然環境公園のマップについて、周辺の緑、水系、地形が見えるように作れないか。 坂や社寺仏閣も台地の高いところに配置されている。 崖線緑地が繋がっているところがあるので、他区の緑地についても薄っすらいれたいと思う。	竹内委員	隣接他区の緑や標高について、データ収集した上でマップ作成できるように検討する。
歴史的公園や自然環境公園はすでにあり、今後の変化はないと思った。 他のシンボリック・地域活用・遊び場・先駆的公園の分類については、整備によって変えられると考える。 和泉公園はまさに、できるから集まる、好きだから集まるという印象である。 例えば千鳥ヶ淵公園は、できることマップ上では機能として多機能であるものの、利用者に使われていないイメージがある。 番町の森は、機能としては少ないが、賑わっていると思う。 機能拡充と人の集まりがミスマッチの状況があるので、注意したほうが良い。	中田委員	歴史的公園・自然環境公園は、機能を継承し守っていくという内容で進めていきたいと考える。 遊び場・先駆的機能については拡充する方向で検討する。 機能拡充が必ずしも満足度が高まるわけではないという視点を基に地域別整備方針の検討を進める。

(2)基本理念・基本方針について

発言・指摘	委員	検討内容
例えば、第3章の基本方針の公園を好きになるについて、公園分類がクロスするような体系づくりが必要ではないか。 なぜ好きになるのか、なぜ育むか、なぜ好きになると課題が解決するののかの関連性が必要である。	中井会長	第2章現状と課題と第3章の基本方針とのつながりについての体系を作成する。
分類が重なり、できることを増やすことや、公園機能とやるべきことが多様であるが故に制限されてしまう場合もある。わかりやすくできないか。 公園分類を施策につなげるとわかりやすくなると思う。	加藤委員	基本方針と公園機能分類と施策がつながるように組み換えや関連付けをする。
公園のみの検討では課題解決にはならない。空間がどのように分布していて、公園と空間の連携性であったり、同じ児童遊園でも保育園と近い場合は連担性が高いので、就学前の子ども向けの整備が必要というような内容となってくると思う。 できることを増やすというのは、施策ではなく基本方針レベルではないか。	中井会長	地域別方針の方で、記入が必要。 地域毎や公園毎の整備構想を検討する上で必要な視点であり、その視点を踏まえ将来系の整備案を作成する。 施策や個別方針の出し方の中で、できることを増やすという位置づけを再検討する。
公園のみでは課題解決できないため、民間の既存ストックと遊戯道路などのイメージで道路などを活用する。 広場空間を仮設的に整備する手法を検討したい。 基本理念の考え方で、遊び、学び、憩う、という内容で、歴史や教育的な視点から学び、その空間で憩う場としたい。 居心地のよい commonspace を目指してということで、街の中にある誰もが憩える空間をイメージしているところである。	印出委員	民間の既存ストックの活用や遊戯道路をイメージとした道路などの公共空間の活用について基本方針の内容に記載する。 基本理念にウィルビーイングにつながる「居心地の良い」や「共有」というキーワードを基に、再検討する。
基本理念について「コモン」は、共有という意味があるため、良いと思った。居心地の良いという言葉もウィルビーイングにつながるので良いと思う。民間連携については、是非とも進めてほしいと思う。	竹内委員	

基本方針1・2・4は、主語がユーザーである。 主語が緑・生物などの人以外のものがなくても良いのか。	伊藤委員	利用者の理解や教育など、利用者が上手く使える手法として働きかけることや、他自治体の事例を基に、公園のルールづくりや見守りについて公園活用の可能性を表現したい。
公園の使い方がうまくないために問題になることもあり、ユーザーを育てていく視点が必要だと思う。 台湾の高齢者は、公園を上手に使っている。 基本方針1の公園が好きになるの施策4に運営だけでなく、「ユーザーの自治について」みたいなコメントがあっても良いのではないかなと思う。	印出井委員	
規制緩和したものをどうユーザーが使うかということが大事である。 京都の官民連携の取組み事例が好事例と思っている。	中井会長	
規制緩和したところに行きやすくなるが、ユーザーによる利用のされ方が悪いとまた規制をするしかないのでは、どのようにできることを増やすかという問題かと思う。	中田委員	「ルールの緩和」という言葉を不採用とする。 最適化ややりたいことをできるようになどの言葉を本方針に反映させる。 ルールづくりと見守るコミュニティづくりの内容を本方針に反映させる。
公園の多様性を広く一般に理解してもらうことが重要である。 ルールを決めて一時的に利用者が満足しても、社会の流れの変化で、そのルールが対応できずに将来的に満足できないケースがあると思う。	竹内委員	
基本方針としては、「市民がやりたいことができる」という言い方が良いと思う。 苦情の原因が、自分ではなく、ルールに従わない他者の利用をみて苦情を言うケースが多いと思う。プライアンプークは、意外とルールが厳しい。しかし、どこで何をやるのが明確になっている。本を読みたい人・遊びたい人など明確になっているのでやりたいときに場所を選ぶということで、不満が減っている。 「やりたいことを受け入れる」みたいな書き方が良いと思う。 基本方針3施策2のルールの緩和は、ルールを緩和すれば良いというものではなくて、みんなで最適をみんなでみつけることが大切。 基本方針3に「コミュニティを育む」というコメントを入れてほしい。	中井会長	すべての施策に対して、区民目線への置き換えを再検討する。 例 修正前: デジタル技術などを活用 修正後: デジタル技術を上手に使う
施策の内容が上から目線の印象を受ける。 例えばデジタル技術などを活用など、区民目線ではなく、管理的な印象を受ける。 区民目線で置き換えて、施策を再検討してみたいか。	印出井委員	基本方針の3か4にマネジメントコストのことを書けるか検討する。
公園の整備だけではなく、マネジメントにコストを掛けることを書いても良いと考えている。 最近試行実験行った時間限定のボール遊びに警備をつけたときに、クレームではなく、警備をつけてくれて良かったという声もあった。 見守り機能などの運営についてコストをかけていくことを書いても良いのではと考えている。 直接書かないまでも、運営や他部署との連携の課題感みたいなものを示唆できれば良い。	中井会長	個別整備方針及び公園毎の方針のゴール設定を検討する。
マネジメントの高度化と公園のリニューアルについて具体的に書いたほうが良い。例えば、児童遊園については、機能特化するのか。千代田区の歴史性・文化性を含めて整理してほしい。公園毎の整理までがゴールということか。		

(3)公園カルテの修正

発言・指摘	委員	検討内容
主としてユーザーの多様性に関わっている。 公園カルテに歴史性や地域活用・遊び場など公園分類を書いた方が良いと感じている。 公園カルテにイベントの開催履歴や公園機能のことを書いてまとめるべきだと考える。 公園だけで問題解決することは、不可能であるため、既存ストックである公開空地の活用方法をどのように使うのか。という部分を踏み込んで検討したい。	印出井委員	公園カルテに公園分類・公園周辺施設・避難所・公開空地などの情報を250m圏内マップを作成し公園カルテに反映させる。
教育施設をマップに落とすのももちろんであるが、この各種プロットをすべて重ねたものはないのか。 例えば公園カルテで、公園250m圏内の全レイヤーを重ねたものがあるかと思う。	中井会長	マップの重ね合わせを検討する。 公園カルテ及び第3章のマップにも用いる。